

教材活用シリーズ 第170回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

「正しく整えて書くことができる」 紙面の具体化

(株)日本標準
『書写ノート』(1～6年)



(株)日本標準
企画編集部

1 『書写ノート』に求められていること

「書写」の学習は、文字を「正しく」、そして、自分にとっても、読む人にとっても読みやすい文字を「整えて書く」ことができるようになることを目標にしています。

硬筆の書写の時間に使用される『書写ノート』では、基準となる文字から、運筆などの書く動作を身につけたり、字形の整え方を理解しながら文字を書く練習をしたりすることができます。

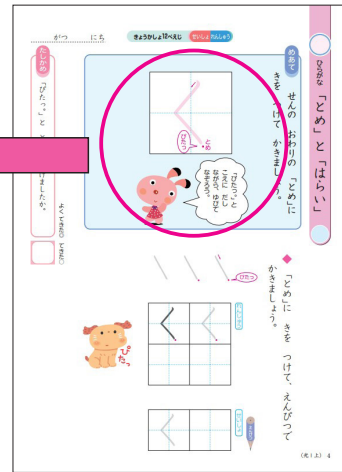
2 書く動作が体感できる

1・2年では、特に書くときのリズム「びたっ」「すうっ」「びよん」といった運筆の学習が大切にされています。

子どもたちの実態として、「筆圧が弱い」「とめ、はね、はらいが表現できていない」などの調査報告もあります。

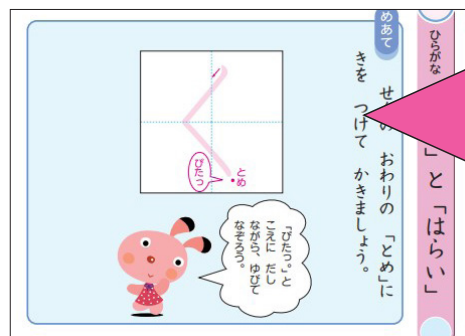
1年の『書写ノート』では、ひらがなの文字の練習マスに、ふき出しの形で、とめを「びたっ」、はらいを「すうっ」、はねを「びよん」などと、文字を入れています。

子どもたちが、ひらがなの線の終わりどめるとき、「びたっ」などと声を出しながら、なぞることができるようになっていきます。



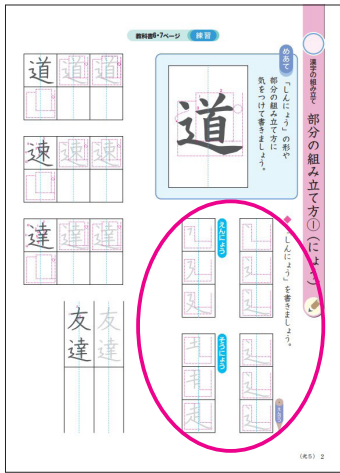
1年「とめ」と「はらい」のページ

拡大したもの

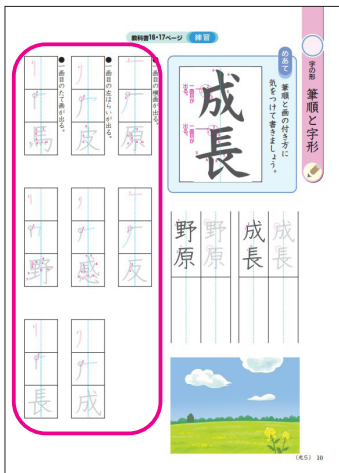


ひらがなの「く」の運筆「びたっ」を
ふき出しの赤字で入れている。

言いながら書く、声を出しながら手を動かす。五感で体感して、書くときの力の入れ方やとめ、はね、はらいの運筆をしっかりと身につけることができます。



5年 文字の組み立て方「によう」のページ
「しんによう」「そうによう」「えんによう」を一画ずつ、位置に注意しながら書く。



5年 「筆順と字形」のページ
出る一画目と、接する二画目を段階的に書く練習マス。出る部分を考えながら二画目を書く。

3 字形の整え方を意識できる

基準となる文字から、字形を「整えて書く」ための書き方を知り、ほかの文字でも、その書き方を生かして書けるように練習します。
『書写ノート』では、新しく学習する字形の整え方を、練習で書きながらも意識できる練習マスにしています。

①取り立てて練習する

新しく学習する字形の整え方の部分だけを書いて練習できるようにしています。
5年の文字の組み立て方「によう」は、これまでに学習してきた「左右」「上下」の組み立て方などと比べても、整え方がより難しい部分です。

そこで、「しんによう」のある基準の文字「道」を練習する前に、取り立てて「しんによう」だけを一画ずつ練習できるマスを作っています。

取り立てて練習することで、新しく学習する「によう」の部分を、自信をもって書くことができるようになります。

整え方によっては、あてはまる点画（点や線）の色を変えて、その部分だけをなぞり、書き方を練習できるようにもしています。

②段階的に練習する

基準の文字で字形の整え方を知り、その文字を練習します。漢字を正しく書きながら、字形の整え方を常に意識できるように、段階的に書く練習マスにしています。
5年の「筆順と字形」のページでは、筆順の一画目が出ることを学習します。

一画目が横画か、左はらいか、たて画かなど、筆順によって、整えるために出す画が違ってきます。文字が変わると、字形の整え方の応用になります。文字毎に整え方を意識できるように、ここでも一画ずつ、段階的に練習できるマスを作っています。

一画目と、それに接する二画目を段階的に書き、出す画を正しく知り、字形の整え方を練習します。

応用した文字の練習で、さらにまた、「筆順と字形」の整え方への理解が深まることにつながります。

『書写ノート』は、授業にくわえ、自習時間や宿題に使用されることも多い教材です。子どもたちが自分で学習するめあてをわかって、自主的に学習を進めることもできる、わかりやすく、書く練習がしやすい紙面展開にしています。

4 「なぜ手書きするのか」

「書写」の学習を通して、子どもたちは運筆や字形の整え方を一つ一つ知り、自分の文字に生かす練習をします。

『書写ノート』で練習をして振り返って、自分の文字の変化、成長を自分で見ることができず。それは、保護者の方へも伝わりません。

自分の名前を書く、ノートに学習したことや自分の考えをまとめるなど、子どもたちにとって、手書きする場面は多いです。自分の文字が好きで、自分の書く文字に自信がもてる子どもたちが多くなってほしいと願っています。

伝えたいことを伝えたい相手に、自分の思いを込めて書く、そんな手書きの意味を表紙画で表現しました。